

中間報告書（平成 22 年度）

提出者 平田 知久

提出年月日 2011 年 4 月 12 日

【プロジェクト名】

和文

歴史概念としての親密圏・公共圏の理論的検討

英文

Theoretical Reconsideration of the Intimate and Public Spheres as a Historical Concept

【メンバー構成】

研究代表者

富永茂樹（京都大学 人文科学研究所・教授）

幹事

平田知久（京都大学 大学院文学研究科・研究員（グローバル COE））

メンバー

山口健一（京都大学 大学院文学研究科・研究員（グローバル COE））

西川純司（京都大学 大学院文学研究科・博士後期課程）

上野大樹（京都大学 大学院人間・環境学研究科・博士後期課程）

中野智仁（慶應義塾大学・講師）

石川由美子（慶應義塾大学・博士後期課程）

【ねらいと目的】（600 字程度）

この研究会は、これまでの理論班定例研究会の趣旨を受け継ぐかたちでなされるものである。すなわち、アジア・ヨーロッパの親密圏と公共圏を歴史概念として捉えることで、これまで様々なかたちで形成され、実際に語られてきた親密圏と公共圏の生成と変容を記述することが、この研究会の趣旨であり、目的である。アプローチとしては、平成 22 年度次世代公募研究（上野ユニット）を含め、京都大学内外の理論研究に携わる研究者とともに、形式的にはタスクフォース型の小ユニット（1 名でも可）を形成し、各ユニットで親密圏と公共圏に関する概念史を追うことにしたい。

【活動の記録】

1. 研究報告など

i. 理論班第 9 回定例研究会（2010 年 9 月 24 日）

報告タイトル: アーレントの『権力／暴力』対称論の再考—ベンヤミンの暴力批判論を手引きとして—

報告者: 間庭大祐（立命館大学 社会学研究科 博士後期課程）

ii. 理論班第 10 回定例研究会（2010 年 10 月 22 日）

報告タイトル: <自律>という主体の在り方と公共圏、親密圏 ——カント「愛の義務」の実践に

よる新たな可能性——

報告者: 蓮尾浩之 (京都大学 人間・環境学研究科 修士課程)

iii. 第2回コアプロジェクト研究会 (2010年11月8日)

報告タイトル: 「コミュニティの記憶と時間・空間——アルヴァックスの集合的記憶論からの展開」

報告者: 金瑛 (京都大学 人間・環境学研究科 修士課程)

iv. 理論班第11回定例研究会 (2010年12月24日)

報告タイトル: 社会国家と統治——フーコーのあと

報告者: 前川真行 (大阪府立大学 総合教育研究機構 准教授)

v. 理論班第13回定例研究会 (2011年2月25日)

報告タイトル: 親密圏から離脱した生、および死についての考察 —— 失踪者の家族の語りとその周辺

報告者: 中森弘樹 (京都大学 人間・環境学研究科・日本学術振興会特別研究員)

2. 研究調査など

i. フランスでの研究打ち合わせ・資料収集・現地調査 (フランス: 2010年10-11月)

調査者: 富永茂樹 (京都大学 人文科学研究所 教授)

本コアプロジェクトは、アジアとヨーロッパにおいてこれまで語られ、また形成されてきた親密圏と公共圏を歴史概念としてとらえ、その生成と変容を考察することを目的とするものである。2010年度は、特にヨーロッパにおける親密圏と公共圏概念について、上記報告者の個人研究報告をもとにして、親密圏・公共圏にかかわる様々な論点を共有することを試みた。

まず、i の報告では、西洋の公共圏概念の展開を図った重要人物の一人である H・アーレントの議論の再読を通じて、その現代的意義と限界をくみ取ることが目指された。さらに、ii の報告では、西洋近代の主体概念の一つの塑像を作り上げたともいえる I・カントの「愛の義務」という論点に着目し、従来の親密圏と公共圏に関する議論の展開を図った。また、iii の報告においては、M・アルヴァックスの集合的記憶論の再読を起点として、現代の様々なかたちで形成されているコミュニティに対する「記憶と空間」からの分析枠組みが提起され、iv の報告では、西洋近世・近代の国家に関する M・フーコーの議論を受けつつ、史実に基づきながらその議論を再考・展開させ、現代の社会（福祉）国家における公共圏概念の端緒を探る試みがなされた。さらに、v の報告においては、近年日本で話題となった失踪者を主題として、残された家族が失踪者をどのように表象し、社会がそのような人々をどのように扱うのかが、具体的な事例をもとに論じられた。最後に、研究調査として、富永は 10 月 23 日から 11 月 2 日までフランスに滞在して、社会科学高等研究院のパトリス・ゲニフェー教授他との公共空間の研究にかかわる打合せおよび情報交換、ナント市の旧ビスケット工場を改装して作られた文化センターの現地調査（ほぼ同時期に開館した京都芸術センターとの比較研究をつうじて、現代社会における公共空間のありようを探ることを目的とする）、およびパリ市歴史図書館その他における資料収集に従事した。（次世代研究ユニット・上野プロジェクトが主催した研究会・講演会については、同プロジェクトの報告書を参照のこと）。

2011 年度においても、親密圏・公共圏に関する幅広い議論を喚起すべく、これまでの定例研究会を継続して行い、年に数回の講演会を企画する。また、2 年後の学術書の出版を念頭に置いて、2010 年度に報告があったいくつかのテーマについて小ユニットを作り、研究の推進を図る。

【通信欄】

（事務局記入欄）

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代 <input type="checkbox"/> 次世代ユニット <input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究		
経費	予算額	(千円)	実績額